

「夏休み経済教室」資料 2022年8月18日

情報で金融を教える

～教材ができるまで、それを使った授業～

目白大学非常勤講師
筑波大学附属中学校非常勤講師
新井 明

本報告の内容

<前半>

- 1 この教材ができるまで
- 2 教材の概要
- 3 どの場面で使い、どう教科書と関連づけるか

<後半>

- 4 教材を使った授業例とその評価
- 5 デジタル時代の金融教材の在り方

前半

1 この教材ができるまで

この教材ができるまで① 当初の問題意識

- ・2018・11 キックオフの会合からスタート その時の問題意識
- ・江口清貴氏（LINE）：①金融リテラシーのイメージは、「**数学力×ネットの特性理解×想像力・判断力**」。②「正しく怖がる」ことが大事。
- ・木戸冬子先生（東京大学）：①金融リテラシーの欠如（奨学金のケース）、②キャッシュレス化によるお金に対する感覚のずれ、③金融リテラシー教育が試みられているのにも関わらず**浸透していない**。
- ・柳川範之先生（東京大学）：①求められているものは、プラグマティックなものか本質的なものか？ 後者だったらロジカルシンキングが求められ、新井紀子さんの「**読解力の金融版**」に近い。②また、お金に関してもシェアリングエコノミー、メルカリ、いろいろな種類のお金の登場などがあり、それに対応する教育が必要。

この教材ができるまで② 参加メンバー

- ・学校側から、高校教員・中学教員（社会科、公民科、情報科）が参加。
- ・ほかに新しく起業した会社にはいった新社会人（柳川ゼミ出身）
- ・LINE関係者以外に、銀行関係者（三井住友DSアセットマネジメント）、金融庁関係者などがメンバーとして参加。
- ・研究会の名称を金融・情報リテラシー研究会とし、LINEみらい財団に所属する形で活動を行った。
- ・今のこどもたちが金融に関してどの程度の知識や関心をもっているか、LINEを通して二回アンケートによるリサーチを行う。

この教材ができるまで③ アンケートを踏まえた課題

＜お金に関する本質的な金融・情報教育の必要性＞

- ・子どもたちはお金についてある程度知り、体験しているが、使い方、管理に関しては自覚的ではない。
- ・子どもたちはお金の貸し借り、リスクに関して十分な理解をしていない。

アンケート結果からの新井のまとめ

＜デジタル時代の金融・情報教育の必要性＞

- ・約3割の子どもたちが、電子決済を利用。
- ・約8割の子どもたちが、PC・スマートフォンによる決済の利用意思を持っている。
- ・子どもたちは、電子決済を近い将来普及するものと捉えている
- ・特に、身近なデバイスであるスマートフォンでの決済が進展することをイメージしている。

<https://line-mirai.org/ja/events/detail/3> による

この教材ができるまで④ 最終的な企画

- ・静岡大学准教授の塩田真吾先生が参加して、教材案を作成。それに検討を加え、最終的に次の三つの教材を作成した。
- ・基本編：「信用」ってなんだろう？
- ・応用編①：「見えないお金」との付き合い方を考えよう
- ・応用編②：複利的思考を身につけよう
- ・作成後、実証授業を浦安市立見明川中学校などで実施した。

2 教材の概要

教材その1 基本編：「信用」ってなんだろう？

- ・生徒が金融に向き合う基本的な姿勢について自ら考えることをめざす。
- ・「信用」と「信頼」の違い、それらを得ることの難しさ、これからの社会を生きるために信用を積み重ねる重要性について学ぶ。
- ・方法としてカードワークやケースを通して学ぶことで、「信用」の重要性に気づかせ、「見えないお金」と上手に付き合う姿勢をつくることをめざす。



イラストは基本編の教材スライドより

教材その2 応用編①：「見えないお金」との付き合いを考えよう

- ・見えないお金である「キャッシュレス」との付き合い方を学ぶ教材。
- ・キャッシュレスについての基礎知識の理解、向き合い方を主体的に考えてさせる内容。
- ・売り手(送り手)と買い手双方から理解するためのコンテンツやワークシートを元にした学習など実践的な内容で構成。

「ぴよちゃん銀行」が社会で使えないのは、なぜ？



イラストは応用編②の教材スライドより

教材その3 応用編②：複利的思考を身につけよう

- ・これまではどうしても「数学」、「計算」というイメージで「複利」の学習は、社会科では敬遠されがち。
- ・「複利」ではなく、「**複利的思考**」に焦点をあてた。
- ・情報の広がり方やウイルスの拡散などといった、身近な複利に関する事例や、利子や奨学金などについて考えさせる内容とした。
- ・期間や金利に注意しながら「**複利を上手に活用する**」態度を養う教材。



イラストは応用編②の
教材スライドより

3 どの場面で使い、どう関連づけるか

学習指導要領や教科書では

＜学習指導要領では＞ 中学公民的分野

- ・市場における取引が貨幣を通して行われていることなどを取り上げる
- ・現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解すること
- ・経済活動や起業などをささえる金融などの働きが重要であることについて取り扱うと記されている。

＜教科書では＞ TK社のケース 経済単元の目次と扱われている内容

- ・経済活動とお金の役割
- ・家計の収入と支出…クレジット、キャッシュレス決済、将来を見据えた選択
- ・金融の仕組みと働き…フィンテック
- ・ライフプランからお金について考えてみよう…リスクとリターン、金融商品
- ・日本銀行と金融政策 が単元内でそれぞれ扱われている。

現実に実施すると

＜社会科の通常の学習では＞

- ・ケース1…経済の学習は2学期以降、教科書どおりの学習カリキュラムの中に位置付けて教材を部分的に活用する。
- ・ケース2…時間調整、投げ込み教材として1時間活用する。
- ・ケース3…金融・情報教育に力を入れている場合は、ケース1のなかに三つの教材を組み込んでみる。その場合は、数学科、家庭科との内容調整を行うことが望ましい。

＜特別教育活動や探究活動での活用＞

- ・学期末や学年末のHR単位での特別授業や学年単位での活用も考えられる。

後半

4 教材を使った授業例とその評価

新井のケース

こんな形で実践を行った

- ・対象：筑波大学附属中学校3年生 公民経済の授業中
- ・授業形態：金融学習のなかへの組み込み＋特設授業
- ・附属中の特殊性：3年公民週3時間を3人の担当者が1時間ずつ担当。
新井は、テーマ0～テーマ23まで1時間1テーマで進行する形。
- ・金融の授業の位置付け：夏休みの課題で読んだ「[続レモンをお金にかえる法](#)」の金融政策の箇所を3回分で学習。21年度のケースは次の通り。
 - テーマ11 景気と金融と信用と
 - テーマ12 金融政策（経済実験）
 - テーマ13 複利的思考を身につけよう
- ・授業スライドの一部を次に紹介する。

授業で使ったスライド1

以下、21年度の授業で使用したスライド



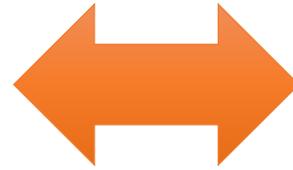
テーマ11 景気と 金融と信用と

非常勤講師 新井 明

金融とは…定義を確認する



お金が**余**っている経済主体



お**金**を**融**通する
こと



お金が**足**りない経済主体

『レモン』part1での金融は

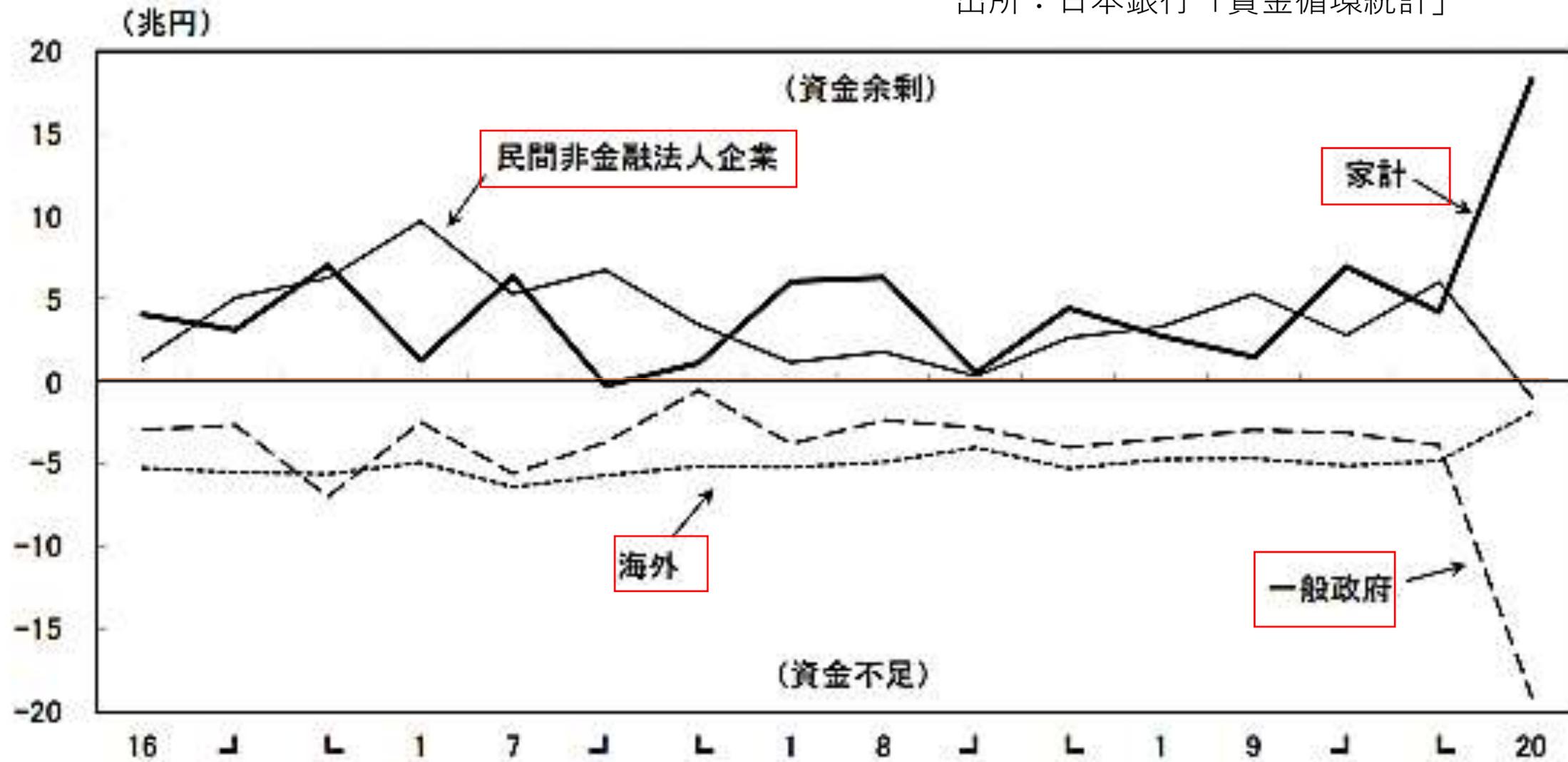
著作権の関係でカットします。
内容は、『レモンをお金にかえる法』で銀行であるお父さんから借金をする場面。

- 1 女の子は企業を立ち上げるためにお父さんに借金をした。
- 2 資金の足りない企業が、銀行（金融機関）からの融資を受けたと経済では表現する。
- 3 この場合は、間接金融になる。なぜなら、女の子は利子をつけて元本を返却している。
- 4 お父さんのお金は銀行預金ということになる。

Part2のダイアンも金利が安いつなぎ資金を借りて、営業を再開している。

分析：日本経済で余っているのは誰？足りないのは誰？

出所：日本銀行「資金循環統計」



ワーク1 誰が貸すか、誰に貸すか？



Q1 回りをみて、自分に貸してくれそうな人はいるか？（何人？）

Q2 回りをみて、自分がお金を貸しても良いと思う人はいるか？（何人？）

Q3 その時の条件は？（貸す時、借りる時）

Q4 一般に、どんな人ならお金を貸すことができるか？

Q5 一般に、どんな人からならお金を借りることが出来るか？

ワーク2 あなたがお金を貸すとしたら

将来、あなたは、

「お金を貸す仕事」につきました。

お客さんにお金を貸すとしたら、何を重視する？



重視する

- 1 見た目がまじめそう
- 2 勉強や仕事ができる
- 3 提出物をきちんと出す
- 4 目標や夢を持っている
- 5 話し方が上手

重視しない

金融で大事なものは「**信用**」次のスライドを見よう

LINE 未来財団 × 金融リテラシー教育研究会 × 静岡大学教育学部

信用 ってなんだろう？

金融・情報リテラシー教育 基本編

授業スライド以下略

授業で使ったスライド2

21年度授業で使用したスライド
その2



テーマ13

複利的思考を身につけよう (金融 Intermezzo)

非常勤講師

新井 明

テーマ13 複利的思考を身につけよう

内容は応用編②に新井が生徒の実情に即して一部修正を加えたものを使用

LINE 未来財団 × 金融リテラシー教育研究会 × 静岡大学教育学部

複利的思考 を身につけよう

金融・情報リテラシー教育 応用編

使用スライド以下略

授業の評価は

生徒の授業評価① テーマ11の場合

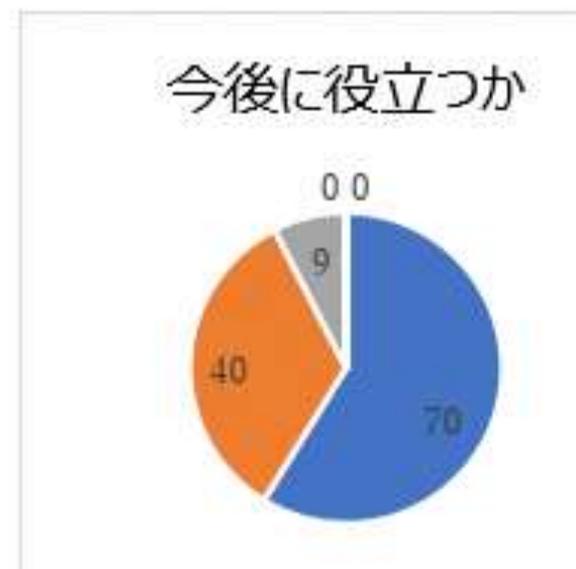
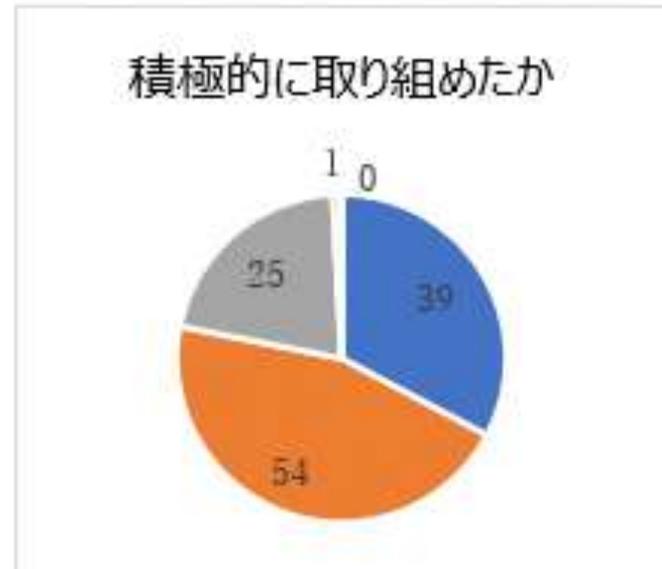
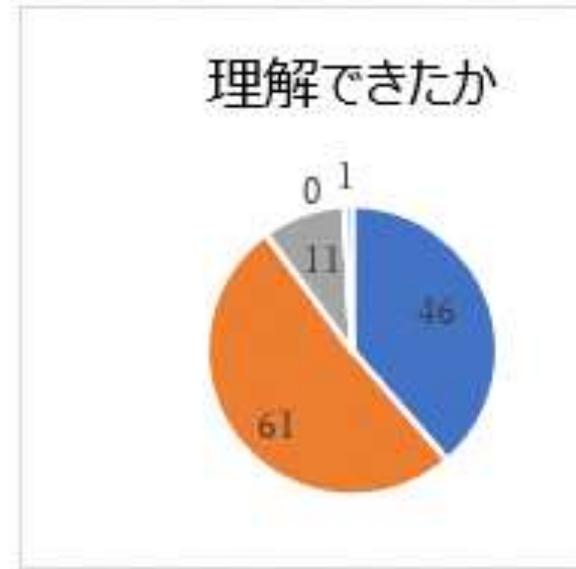
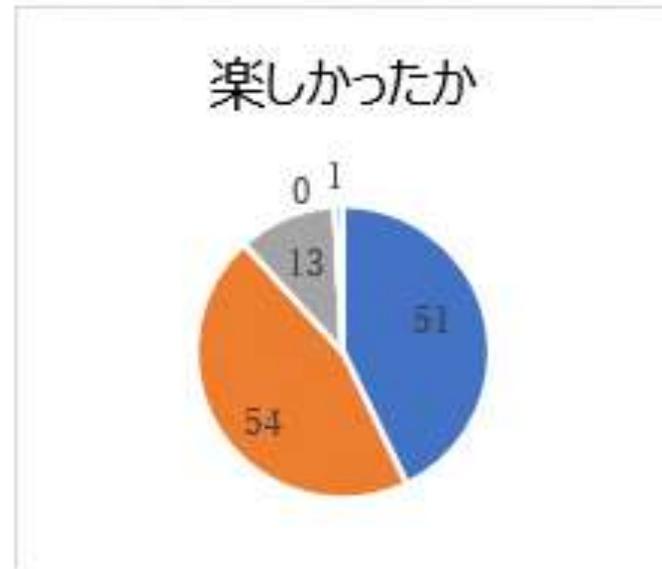
- ・金融の定義は簡単だが、そこに人間がはいると感情がまじってくるので複雑になるなと思った。
- ・お金を貸す立場だったら、将来性があり、信頼できる人に貸すと思う。借りる場合には、自分が貸してもらえる人になることが大切。だが、信頼に絶対性がないから難しい。
- ・お金を貸すことにはリスクがあることを再認識させられた。
- ・ハイリスク・ハイリターンということで株で成功している人を良く見るが、その裏では膨大な数の失敗している人がいそうだと感じた。
- ・日本とアメリカのお金の運用の違いが驚き。日本人はリスクを気にして間接金融が多すぎる。アメリカの家庭はあんなに株をもっていて大丈夫だろうか。

生徒の授業評価② テーマ13の場合

<経済と複利のポイントは何か、授業の感想など>

- ・複利を考えるのはよいけれど、計算がめんどくさい。
- ・利子が低くともローリスク・ローリターンの方が心配が少ない。
- ・数学と経済が結び付いた。
- ・自分は借金をしないようになりたいと思っていたが、奨学金のように前向きな借金もあるのだと思った。
- ・いままでよく知らないがために「なんだか怖い」と思って、お金を借りる事はダメなことだと考えていたが、今回の授業をうけて、計画的な思考をもって自分に投資することは良いことだと分かった。

参考 テーマ13（複利的思考）に関して 20年度3クラス119名の評価



参考 大学生（目白大学教職課程）の評価 22年6月実施

<信用と信頼>

- ・信用が金融にどうかかわるかをもっと説明した方がよい／具体例がもっとあるとよい／
- ・貸手と借手でデモンストレーションをやるとういのは／こつこつ信用をえてゆくことで信頼を得ることをちゃんと教えることは大事／カードを使うことで理解が深まった

<複利的思考>

- ・事前の学習が必要、複雑で難しい／実際に計算させるとよいのでは／高校生向けか／中学生でもゆっくりやれば理解できるのではないか
- ・将来の投資やこれからの資産形成に役立つ／奨学金の話は絶対に必要／クイズで大きくはずしたことで複利の大きさが分かった。

5 デジタル時代の金融教材の在り方

今回報告した教材の総括

- 1 デジタル時代の金融教育、情報からのアプローチが求められるとしても、**基礎・基本となる金融に関する知識や態度がベース**であることが大事であるという事であろう。
- 2 教材は、**①面白いこと**、**②本質的な内容を踏まえていること**、**③時代の要請に応えること**の三つであると考えられる。その意味では、教材としての資格ありと言えるだろう。
- 3 この教材はアナログ型で作成されているが、**デジタル型の教材**（タブレット使用）の開発がさらに求められるだろう。どちらのタイプの教材が生徒の金融リテラシーを高めるものになるか、比較研究が今後の課題となろう。
- 4 家庭科での金融教育や高校情報科での**デジタル教育**と結び合わせたカリキュラムや教材作りも課題となろう。

ご清聴、有難うございます。